

令和7年度 大明小の教育について(保護者アンケート)の結果とまとめ

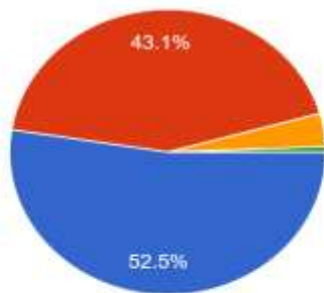
調査対象人数：家庭数 237軒 回答数 181軒 回答率 76.4%

調査実施時期：令和7年 12月4日(水)～12月12日(金)

昨年度、評価項目の見直しを行い、2年目の評価となる。左側の円グラフが今年度の評価結果となり、右側の小さめの円グラフが昨年度の評価結果となっている。

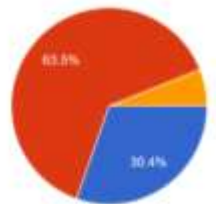
学校経営・運営

1. 学校は、地域や保護者の期待や要望をくみ取り...取り組みを設定し、教育活動に取り組んでいる。
160件の回答

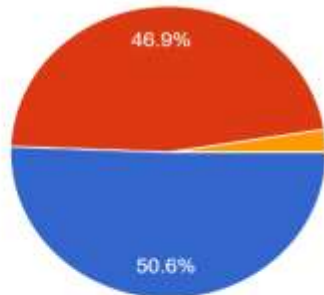


● A. そう思う
● B. ややそう思う
● C. あまりそう思わない
● D. そう思わない

R6

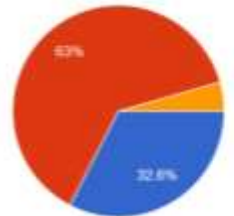


2. 学校は、教育活動に適した施設・設備が整っている。
160件の回答

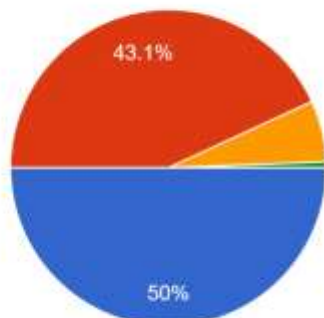


● A. そう思う
● B. ややそう思う
● C. あまりそう思わない
● D. そう思わない

R6

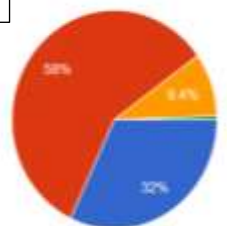


3. 家庭と学校は、連絡や意思の疎通が図られている。
160件の回答



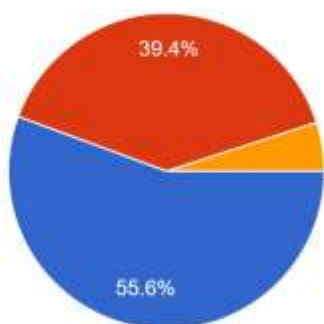
● A. そう思う
● B. ややそう思う
● C. あまりそう思わない
● D. そう思わない

R6



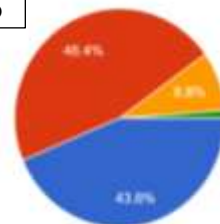
4. 学校からの文書や連絡等は適切である。

160 件の回答



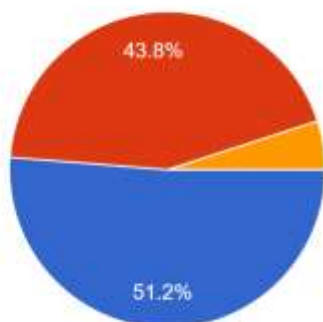
R6

- A. そう思う
- B. ややそう思う
- C. あまりそう思わない
- D. そう思わない



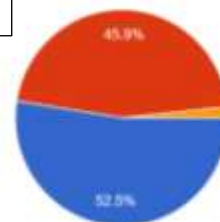
5. 学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している。

160 件の回答



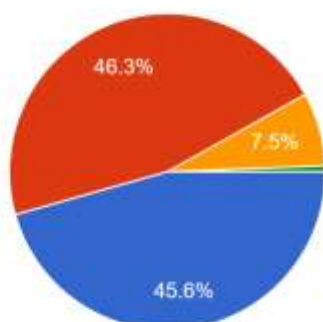
R6

- A. そう思う
- B. ややそう思う
- C. あまりそう思わない
- D. そう思わない



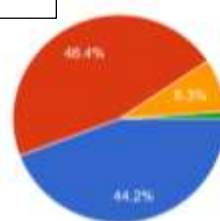
6. 子どもは、学校に行くことを楽しみにしている。

160 件の回答



R6

- A. そう思う
- B. ややそう思う
- C. あまりそう思わない
- D. そう思わない



【いただいた御意見】

○1

- ・教員不足は理解していますが担任不在に不安を感じています。
- ・修学旅行は盛りだくさんな内容で無事に連れて帰ってきて頂き先生方に感謝します 道中の様子を少し知りたかったです
- ・先日の文化祭では素晴らしい発表ありがとうございました。祖母も全校合唱について非常に感謝しておりました。

○3

- ・いつも子どもの成長に寄り添って頂きありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。
- ・お世話になっております。学校に行けない日が多い中、依田先生、青柳先生はじめ先生方には娘のことを理解していただき見守りながら接していただいていることに日々感謝しております。

○4

- ・家庭から先生にお伝えしたいことがあれば連絡帳に書かせてもらっており、それに対応していただけていると感じます。先生からは個別でご連絡いただくことはあまりないですが、学校での様子で何か気になる点(先生やお友達を困らせるような行動など)などないかと、気にしてはおります。
- ・いつもお世話になっております。学校で何かあると、丁寧に電話でご連絡いただき、安心できます。仕事が増えて大変かと思いますがありがたいです。これからも引き続きよろしくお願い致します。
- ・子どもも毎日楽しく学校生活を送り、家でもよく話してくれています。ご指導と迅速丁寧な対応をして下さり、いつもありがとうございます。

○5

- ・不審者対策について、学校の入り口の防犯面が少し気になります。いつでも誰でも入れてしまいそうで、特に学校開放日はいろんな人の出入が自由で、少し気になります。

○6

- ・子どもたちが毎日楽しく登校できる学校づくりをしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。毎日ありがとうございます。
- ・のびのび楽しく通えることはとても嬉しく思っています。

【アンケートからの考察】

〈設問1・2〉

2つの設問ともに肯定的評価が極めて高い数値を記録しました。これは、保護者の皆様が学校の教育方針や環境に対して、強く信頼を寄せてくださっていることを示唆していると言えます。自由記述に見られる「文化発表会の全校合唱への感激」や「修学旅行への感謝」といった声は、学校が掲げる重点目標が、行事を通して保護者や地域に伝わっていることの表れだと思えます。一方で、「担任不在」に対する不安の声も寄せられています。これは見過ごせない最重要課題です。現状は保護者の皆様のご理解に支えられている側面が大きいと思われます。教員不足という構造的な課題は学校単独での解決が困難ですが、具体的な体制を丁寧に説明し続けることで、不安の軽減に努める必要があると考えます。

〈設問3・4〉

設問3においては9割以上が肯定の回答をいただいておりますが、「C：あまりそう思わない」がやや多めである点に着目する必要があります。全体としては良好ですが、一部の保護者が現状のコミュニケーション頻度や内容に物足りなさを感じているものだと思われます。設問4では「A：そう思う」が非常に多く、学校からの事務的な連絡、緊急時の対応、お便りの内容などが「正確・迅速・丁寧」であると

評価されています。配慮を要する家庭への温かい支援も信頼の基盤となっています。しかし、連絡や報告が遅い、丁寧でないと感じている保護者の方も一部いらっしゃいます。自由記述には、問題が起きていない平時のコミュニケーションを心配する声もありました。今後は連絡帳や通信等を活用した「小さな発信」の積み重ねを大切にしていきたい。

〈設問5〉

肯定的な評価が95%に達しました。避難訓練や引き渡し訓練の実施、緊急メールの配信など、学校が講じている安全対策の情報が、保護者に伝わっていることが評価されたと思われます。一方で、自由記述にあった指摘を重く受け止める必要があります。物理的な施設管理や来校者チェックの運用を見直し、PTAと連携して受付係の配置を検討するなど、対策を講じていく必要があると思われます。

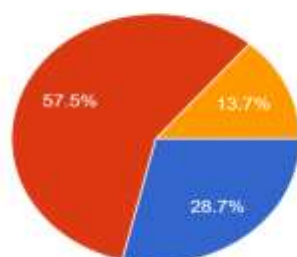
〈設問6〉

A評価とB評価が拮抗しており、合わせて約92%の保護者が「子どもは学校を楽しみにしている」と感じています。これは学校が子どもたちにとって「安心できる居場所」として機能していることを示し、非常に高い評価だと思えます。一方で、C・D評価の合計は他の項目と比較するとやや高い数値となっています。これは「我が子が適応できていない・悩みを抱えている」という層が一定数存在することを示唆しています。大部分の児童生徒にとって学校は「毎日通いたい場所」になっていますが、今後はこの高い肯定率を維持しつつ、「学校を楽しめない約8%の子どもたち」を誰一人取り残さないよう、個別の教育相談や支援体制を充実させていきたいと思えます。

学習・生徒指導

7. 子どもは、授業を十分に理解している。

160件の回答



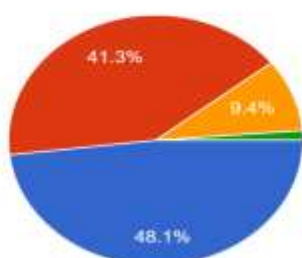
- A. そう思う
- B. ややそう思う
- C. あまりそう思わない
- D. そう思わない

R6



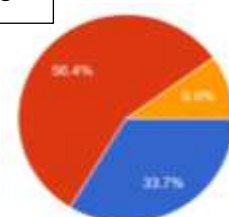
8. 学校は、子どもの学力を向上させるための取組...理解をさせるための手立てや支援を行っている。

160件の回答



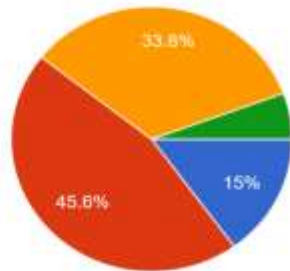
- A. そう思う
- B. ややそう思う
- C. あまりそう思わない
- D. そう思わない

R6



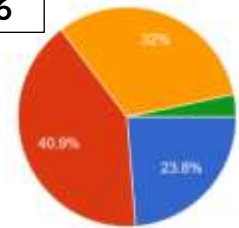
9. 子どもは、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。

160 件の回答



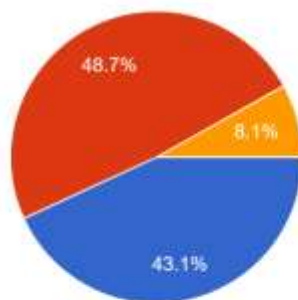
- A. そう思う
- B. ややそう思う
- C. あまりそう思わない
- D. そう思わない

R6



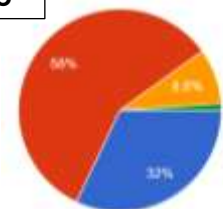
10. 学校は、子どもについての悩みや心配事に適切に対応している。

160 件の回答



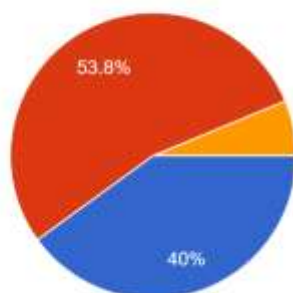
- A. そう思う
- B. ややそう思う
- C. あまりそう思わない
- D. そう思わない

R6



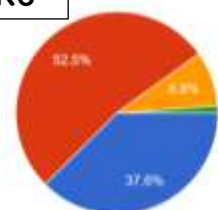
11. 学校は、子どもたちの気持ちを理解し、温か...づくりを行い、「いじめ」の防止に努めている。

160 件の回答



- A. そう思う
- B. ややそう思う
- C. あまりそう思わない
- D. そう思わない

R6



【いただいた御意見】

〇8

・担任の先生によって、学習の取り組み方や工夫に大きく差があると感じる。

・中学校入学に向けて課題が少なく、自学をすることはいいことなのかもしれませんが、勉強嫌いな子はほとんどしません。苦手な所はなかなか自主的に勉強しないので、課題があった方がいいと思います。また、分からない所を先生に聞けるような信頼関係を作る、聞けるような環境であることも必要かと思います。

・宿題について、家庭の自主学習に重点を置かれているからかもしれませんが、毎日、算数プリント1枚、各自漢字練習と単調だと思います。この量は、クラス？先生によって違うのでしょうか？週末は宿題プラス自主学習としてもらえると、子供たちも自主学習に取り組む習慣が増えると思います。

・自主的に自主学習に取り組める様なヒントや働きがけをしてもらえたらと思います。子供たちに自主学習は自分の苦手や興味があるものに取り組むものと言う感覚よりも、やるかやらないかは自分で決めて良いものという感覚のほうが強いと思います

・家庭学習だと気を抜いております もっと提出するように言葉をかけてほしい

・宿題が課題形式になり、毎日の宿題として出ないので去年までせっかく身に付いた家庭での学習習慣がなくなってきてしまっている気がします。課題も学校で終わってしまい、すぐに終わってしまうようで5年生になってからほぼ毎日何もしない日が増えてしまっています。中学生に向けて課題形式に慣れることは良いことだと思うけど、勉強が嫌いな子はなかなか進んで自学をしないので、勉強時間が減ってしまうだけになっていて心配です。5年生のうちは、課題が終わった人には宿題として、何かプリントなどを渡してほしいです。

・学力向上のために、ICTよりも紙と鉛筆で取り組む課題を出して下さい。子どもがタブレットで問題を解いているとき、スムーズに反応しなかったり、問題全体が画面に写らず見づらかったりすることで学習に集中できず、余計なストレスがかかっていました。私もやってみましたが、紙に書く方が記憶にも記録にもはっきり残るように思いました。先にICTを取り入れた国では成果が出ず、やめたところもあります。タブレット学習は義務としては与えず、家庭に任せてほしいです。また、学校でYouTubeを見たり、ゲームをしたりしていると聞いています。うちでもあれば見てしまいます。せめて学校にいる間くらいは狭い画面を覗くことから離れてほしいと思います。子どもには刺激の強い画面よりも、落ち着いた空間での読書を薦めてほしいと思います。家庭でも心掛けています。ご検討いただきたいです。

〇11

・いじめや仲間はずれに関して、それがどれだけ人としてやってはいけないことで、恥ずかしいことなのか、というような授業が低学年のうちからあるとありがたいなと思います。(もうすでにあるようでしたら、申し訳ありません。) 今後ともよろしく願いいたします。

・同じクラスに騒がしい子がいると、うまくいかない事があると、子供から聞く事が多々あります。私の子も同様に騒がしくしているかと思いますが、妨げになる様でしたらしっかり指導をお願い致します。

【アンケートからの考察】

〈設問 7・8〉

設問 7 について、「A：そう思う」は約 28% (46 件) に留まりました。B 評価が圧倒的に多いことから「十分に理解できているか不安」と感じている保護者が多く、また「C：あまりそう思わない」がこれまで最も多い数値となり、保護者の約 7～8 人に 1 人の割合で子どもの学習理解度に不安を抱えていることが読み取れます。設問 8 については「取り組み姿勢」自体は評価されていますが、自由記述と照らし合わせると、「学校の取り組みは理解できるが、自学重視や ICT 活用が我が子に合っているか疑問」というギャップが生じています。学校が目指す「主体性や中学校への接続」と、保護者が求める「確実な定着」の意識差を埋める取り組みが必要です。「自学」導入プロセスにおいて、スモールステップで方法を教える、ある程度の強制力を残すなど、保護者の安心と信頼につなげていきたいと考えます。

〈設問 9〉

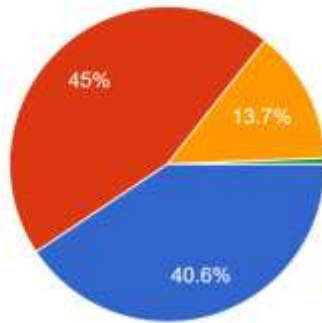
「A：そう思う」はわずか 15% (24 件) に留まりました。「取り組めていない (C・D 評価)」を合わせると約 40% に達します。また、実際の子供の姿 (設問 9) を肯定できているのは 6 割のみであり、「学校の取組みに対して実際、子供は動いていない」という厳しい現実が数値化されています。今後は「自主学習」の段階的指導として、メニュー選択制や時間設定など取り組みやすいガイドラインを示したり、「何をすればいいか」のモデルを提示したりするなど、習慣化への働きかけを行います。また、家庭への具体的な協力依頼などを含め、家庭学習を校内研修の柱の一つとして取り組むことが必要だと考えます。

〈設問 10・11〉

設問 10 では、悩みに対する学校の対応について強い不満を持つ保護者がおらず、学校の相談体制への信頼 (9 割超) が伺えます。C 評価については、実際に相談した結果が不十分だったケースと考えられます。設問 11 では、「B：ややそう思う」が「A：そう思う」を上回りましたが、D 評価がゼロであることから、深刻な問題が放置されている状況はないと受け止めております。自由記述からは、起きてしまったトラブルの処理だけでなく、「トラブルが起きないような心と規律の教育」を求めていることが伺えます。道徳の授業や学級活動で「いじめ」を扱った際は、その取り組みを可視化するとともに、学年職員だけでなく管理職やスクールカウンセラーなど複数の相談ルートがあることを広く案内し、相談しやすい環境整備に努めます。

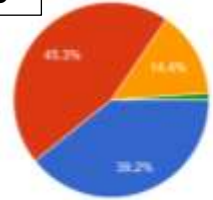
生活習慣

12. 子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的習慣が身に付いている。
160件の回答

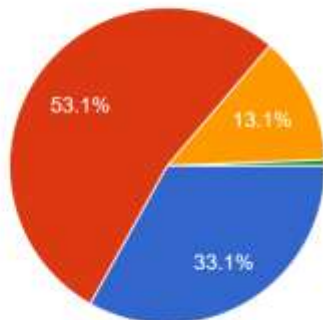


- A. そう思う
- B. ややそう思う
- C. あまりそう思わない
- D. そう思わない

R6

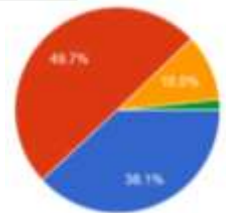


13. 子どもたちは、家庭や地域の中で、あいさつをしている。
160件の回答

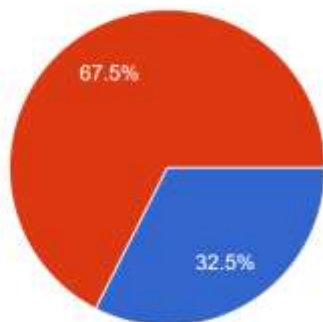


- A. そう思う
- B. ややそう思う
- C. あまりそう思わない
- D. そう思わない

R6

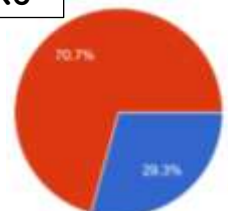


14. 子どもに携帯電話を持たせている。
160件の回答



- 持たせている
- 持たせていない

R6



15. 子どもと携帯電話のルール作りをしている。(携帯電話を持たせている場合のみ回答)

60件の回答



【いただいた御意見】

○13

・以前住んでいた隣の小中学生と比べると、あいさつすることに不慣れな子が多い印象です。時勢柄し
ようがないことかもしれませんが…。

・あいさつのことで気になる点がございましてこちらに書かせていただきます。こちらからあいさつを
しても反応がない先生がいらっしゃいます。子供に指導するにあたり指導者である先生方にお手本に
なっていたきたいと思えます。

【アンケートからの考察】

〈設問 12・13〉

設問 1 2 について、8 割以上で「定着している」との結果が出ており、多くの家庭で規則正しい生活リズムが作られています。現状維持とせず、生活リズムの乱れに対しては保健だより等で啓発活動を行い、引き続き家庭の協力を仰いでいきます。設問 1 3 については、学校内だけでなく「家庭や地域で」という問いに対して、約 15%の保護者が「できていない」と感じています。数値自体は極端に低い数値はありませんが、自由記述にあるように質的な面（相手に届く声で、自分から、など）での課題があると思われま。登下校中においても地域の方々へのあいさつの大切さを示していくとともに、「あいさつを返さない先生がいる」という声は全職員で共有します。組織全体の課題として「保護者・来客への明るいあいさつ」を徹底し、師弟同行で取り組んでいきたいと考えます。

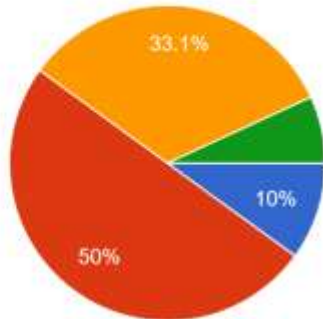
〈設問 14・15〉

クラスの 3 割が携帯電話等を所持していますが、そのうち 8 割以上の家庭で何らかのルールを決めており、保護者の管理意識は高いと言えます。多くのご家庭でルール作りにご理解・ご協力をいただいていることが分かりました。しかし、15%程度のご家庭ではルール作りがなされていない状況もあるため、今後もルール作りについて呼びかけを行っていきます。また児童に対しても、情報モラル教育をさらに推進していきます。

小中一貫教育

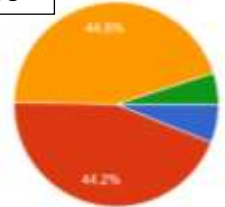
16. 令和5年度より小中一貫校としてスタートし...たが、小中一貫の取組について知っていますか。

160件の回答



- A. よく知っている
- B. 少し知っている
- C. あまり知らない
- D. ぜんぜん知らない

R6



【いただいた御意見】

- 小中一貫校となっているのは知っていますが、具体的にどんなところでメリットがあるのかわかりにくい。
- 小中一貫は普通の学校と何が違うのかよく分からない。
- 問16の一貫校としてスタートしたのは知っているが、どんな取組をしているのか全く知らない。
- 陸上記録会の練習はとても楽しく充実して取り組めたようでした。中学生に教えてもらえたことが、小中一貫を感じられました。
- 小中一貫校になり今までとどう変わったのか、具体的に教えてほしい。

【アンケートからの考察】

〈設問16〉

B:「少し知っている」が最大多数でした。これは「小中一貫校になったことは知っているが、具体的に何をしているかは詳しく知らない」層と推測されます。またC・D評価を合わせると約4割に達しており、保護者にとってはその変化が日常の中で実感できていない現状があると思われます。今後は、「6年生の交流会」「5年生の林間学校」「小中あいさつ交流」「陸上記録会に向けての小中の練習会」などをはじめ、小中一貫校としての活動内容や、中1ギャップ解消に向けての取り組み、そのメリット等を分かりやすく積極的に発信していく必要があると感じています。